

新型補給船「HTV-X」、ISS到着

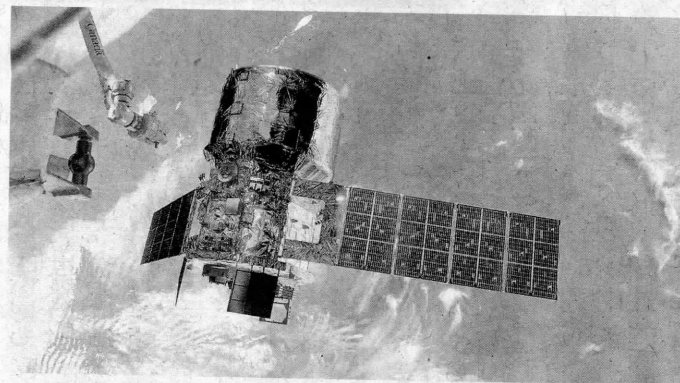
油井さんアームでキャッチ

日本の新型宇宙ステーション補給機（HTV-X）1号機が30日未明（日本時間）、国際宇宙ステーション（ISS）に到着した。長期滞在中の油井亀美也さん（55）がロボットアームを操作して午前0時58分ごろにキャッチし、ISSに取り付けた。

電気や通信系統の接続作業を行い、30日午後（同）にドッキ

ングが完了。ISSとのハッチが開かれ、宇宙飛行士がHTV-Xの貨物室内に入って、荷物の搬出作業などを行う。

油井さんは取り付け直後、地上との交信で「きょうは私にこの大役を任せていただき、ありがとうございます」と感謝。米航空宇宙局（NASA）の管制室で交信を担当していた星出彰彦さん（56）が「油井さん、キャプチャーおめでとございます。グッドジョブ」と祝福した。



国際宇宙ステーション（ISS）滞在中の油井亀美也さんが操作するロボットアームでキャッチされるHTV-X＝30日（JAXA提供）

HTV-Xは、ISSに物資や実験装置などを輸送する無人補給機で、2009～20年に計9機が連続成功した「こうのとり」（HTV）の後継機だ。26日に鹿児島県・種子島宇宙センターからH3ロケット7



HTV-XがISSのロボットアームで無事キャッチされ、喜ぶ地上管制官ら。30日、茨城県つくば市の筑波宇宙センター（JAXA提供）

号機で打ち上げられた1号機は、軌道投入後に徐々に高度を上げてISSから約10キロまで接近。油井さんがロボットアームでつかみ、ドッキングポートに取り付けた。

油井さんは前回長期滞在中の15年にも、ISSに到着したこのとり5号機をロボットアームでキャッチしている。

今回の1号機には、生鮮食料品や水のほか、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が将来の月や火星探査に向けた実証実験を行う二酸化炭素除去装置などが積み込まれている。